



お客様各位

2020年1月31日

トレーディア株式会社  
取締役常務執行役員  
兼 営業戦略本部長  
増田 裕人

下関駅を含む拠点駅追加認可を取得

総合物流会社で、国際複合一貫輸送を提供するトレーディア株式会社（代表取締役社長執行役員：古郡 勝英）は、昨年12月に取得した貨物利用運送事業の第二種（鉄道）の認可に加え、新たに下関駅を含む関門地域及び九州北部の貨物ターミナル駅を拠点駅とする認可を取得致しました。同時に、下関港を中心に外航フェリー船から鉄道に直接接続するSEA&RAIL サービスの提供を開始いたします。

今回下関駅を拠点として提供を開始するSEA&RAIL サービスは、上海港至近の太倉港と下関港間に就航する蘇州下関フェリー(株)のJRコンテナを利用したSEA&RAIL サービスを利用し、太倉港からJRコンテナを使用して下関港で通関後、コンテナの積み替え等を必要とせず直接日本貨物鉄道(株)の鉄道輸送網に接続することが可能なサービスです。

本サービスでは日本港到着後にコンテナ出しや積み替えが不要で、特にCFS貨物で繁忙期に頻発する搬入遅延による納期遅延リスクを回避することができます。また、日本側での全輸送行程において海上コンテナ専用トレーラーを必要としないため、昨今の国際物流で課題となっている車両確保や納期調整等の業務負担を大幅に軽減します。

さらに、本サービスは蘇州下関フェリー(株)の運行する新造フェリー船“UTOPIA”の定時性と、太倉港・下関港間を約1.5日で結ぶフェリー船の運航速度を生かしたサービスであり、太倉港出港から首都圏近郊への納入まで最短で中1～2日で輸送が可能のため、国際物流における納期厳守と更なる短納期化の実現が可能です。

東京港を中心とした近年の慢性的なドライバー不足や港湾ヤード施設の容量超過を原因とする長時間待機、また周辺道路の混雑といった条件が重なり、輸出入貨物のトレーラー・トラック輸送は限界に達しています。さらに2020年の東京五輪・パラリンピック開催も間近となり、期間中の輸送規制を見据えた対策として、積出港や貨物量に応じて昨年から開始した阪神港起点の鉄道輸送サービスに加えてJRコンテナのまま輸入・鉄道輸送が可能な本サービスを新たに開始することで、より一層お客様ニーズに対応した国際物流サービスを提供いたします。

トレーディアは今後も鉄道コンテナ輸送サービスを拡大し、日本全国のお客様ニーズに合わせた幅広い輸送方法を提供することで、国際物流サービスの更なる拡充を図ってまいります。



九運貨物第562号

認 可 書

トレーディア 株式会社  
代表取締役 古都 勝英 殿

令和元年12月19日付け申請による第二種貨物利用運送事業（鉄道）の事業計画及び集配事業計画の変更については、申請のとおり認可する。  
なお、本認可申請にかかるその他の届出は受理したものとみなす。

令和2年1月31日

九州運輸局長 岩月 理 浩

